

彦根カトリック教会のオーラルヒストリー
 Oral History of Hikone Catholic Church

山口 隆介

Yamaguchi Ryusuke

要 旨

彦根カトリック教会は彦根市に拠点をおくカトリック教会である。宗教的マイノリティであるが、彦根市の中心地に位置し、独自の立ち位置で市の歴史に関わってきた。本研究ノートは、そのような共同体についてのオーラルヒストリー研究の端緒である。

本研究は聖泉大学研究倫理委員会の倫理審査を経て、承認番号 015-016 として承認されたものであり、インフォーマントへのインタビューはすべて、承認された方法によって行った。インフォーマントとして協力して下さった彦根カトリック教会の信者の方々に心から感謝する。

Key Words: オーラルヒストリー 小教区の歴史 カトリック

彦根カトリック教会創立 50 周年を祝した記念誌『キリストの道 五十年』によれば、彦根カトリック教会は、1935 年 9 月 8 日に御旗町の借家で初ミサが行われた時に始まったという。彦根市街地における明治時代から昭和 43 年までの町名に御旗町というものはない。一番近いもので上御旗町という町名は存在する。上御旗町は一部が現在錦町という町名に変わっており、聞き取りによれば現在錦町にあるさる施設(プライバシーを考慮し、固有名詞は伏せる)がその跡地に建っているとのことであった。

そして、彦根市教育委員会歴史民俗資料室の協力により得た情報によれば、大阪朝日新聞滋賀版昭和 12 年 6 月 25 日付の紙面に、昭和 12 年 6 月 24 日午後 0 時半に上御旗町 36 のカトリック教会から出火し、午後 1 時半に鎮火した旨、記事が出ているということである。

これらの情報を総合するに、彦根カトリック教会は上御旗町にあった借家での 1935 年 9 月 8 日の初ミサに始まり、そして、1937 年 6 月 24 日に焼失するまでそこにあったと考えるのが妥当であろう。初代主任司祭ウィットロ神父¹から、2 代目主任司祭を引き継ぐことが決まっていたウィッテ神父²は芹新町に借家を借り、そして最終的に同年 9 月に、金亀町

の木俣家老邸(上記『キリストの道 五十年』では「安居吉蔵邸」)を借りて教会とした。

ウィッテ神父は、地元の生徒を集めて林間学校を行い、また、小屋を建てて女性向けの裁縫教室を開くなど地域貢献に勤めた。学校で、英語の授業も持っていたが、1941年12月8日日米開戦の日に、ウィッテ神父は国外退去を命ぜられた³。

これらの時期については、戦前からの信者の次のような文が『キリストの道 五十年』に寄せられている。

「戦前の静かな日本庭園の見はらせる奥座敷のお聖堂、戦争の始まる前の張りつめた困惑した時代、戦争中、神父様がアメリカへ強制送還、特攻の訪問⁴、信者の口から口へ伝えて、1ヶ月に1度、半年に1度の御ミサに隠れて出かけた時代」⁵

「私の幼少年時代は、御ミサに行くことを決して他人にもらしませんでした。教会の門をくぐる時あたりを見廻し、見つからない様の中に駆け込み、大急ぎでくぐり戸を閉じたものです。惨めな自分を卑しみながら」⁶

敗戦後、ウィッテ神父の復帰は1947年9月であり、同じ年、教会は上述の木俣家老邸で再開した。

翌1948年3月13日に現在の敷地を、税金だけ日本円で、他はドル建てで購入し、1950年に仮聖堂建設着工、翌1951年3月に竣工している。この仮聖堂は2017年現在も残っており、伝道館と名付けられ、会議や勉強会、外国人コミュニティのパーティー、交流会等に利用されている。この間にウィッテ神父が伏見教会に転任となり、2人の司祭を挟んで、彦根カトリック教会の洗礼者数最盛期の主任司祭、スミス神父⁷が1951年8月に主任司祭として着任する。

『キリストの道 五十年』には1947年から1985年までの受洗者数推移が記載されており、1949年の受洗者が10人だったのに対し、1950年の受洗者が31人を記録したのを皮切りに、51年には58人、52年には103人、53年には124人、54年には87人、55年には119人、1956年に89人と、1957年が43人、1958年に22人となって以後、落ち着くまで大量受洗の時期があったことがうかがわれる。

この時期について、上に引用した戦前からの信者は次のように語っている。

「……戦後の混乱期、アメリカ礼賛時代、今の地に立派なお聖堂が建ち、溢れる様な信者、求道者が歓喜の聖歌を歌い続けたクリスマス、そしてブームの去った静かな教会」⁸

また、『キリストの道 五十年』にはほかに「戦後の隆盛期」⁹「スミス神父の頃、教会が目覚ましい発展をとげた昭和20年代後半」¹⁰という表現が散見される。

戦後、彦根カトリック教会にいた司祭およびシスターで、目立った印象を残しているのは2代目主任司祭ウィッテ神父、5代目スミス神父、およびシスター・ジーン、シスター・ポーロ三木であるが、全員メリノール会であり、ウィッテ神父、スミス神父、シスター・ジーンはアメリカ人で、聞き取り調査では、アメリカ人の神父さん、アメリカ人のシスターとしての言及が耳に残る。

そして、戦後すぐの彦根カトリック教会が彦根においてどのような存在であるかを示唆する証言が、ララ物資の配給の拠点となっていたということである。ララ物資¹⁾の彦根での配給の実態は、現在筆者にはつかめていない。しかし、教会が物資を配っていたことは複数からの証言で確認が取れており、アメリカからの物資が彦根で配られる拠点(唯一か、複数あるものの1つであったかは現時点では不明)であったことは矛盾なく解釈できる。ウィッテ神父がララ物資について一切言及していないことを考えると、物資配給がどのような性質のものであったかは、今後の調査を要することであろうと思われる。

アメリカ人シスターがペニシリンを持っていて、それが、アメリカ人しか手に入らないと当時認識されていた。子どものころケガをすると、シスターにそれをつけてもらい、また、脊椎カリエスまでそれで治った人がいると証言があった。

またスミス神父も、アメリカで出ていたレコードチェンジャーを使用していたことを、今でも思い出として語っている証言がある。

スミス神父が社会的であり、晩餐会を開いて、工場長、公的機関の局長、病院長など社会的地位のある人士(証言内では彦根のリーダーの人たちと表現されている)を招いていた。アメリカ人が珍しいので、と証言内では言われていたが、アメリカ人と付き合いがあることがステータスだった時代があるのではなかろうか。

近江絹糸の女子工員が、大勢教会に来ていた。当時、近江絹糸の労働争議が、経営者側からの信仰の押しつけという面もあって起きており、それに反発した工員たちが、キリスト教の教会に来ていたという認識がある。女子工員の中にはシスターになった人が 5、6人、男性では司祭になった人もいるそうである。

昭和 20 年代の彦根カトリック教会においては、結論から言うと、アメリカの修道会の力が大きかったという印象を受ける。

¹ William V. Whitlow(1904-1957)。メリノール会の Web アーカイブによれば、1933 年から 1936 年まで日本を任地とし、1936 年に香港に派遣、日本人、フィリピン人、香港人グ

ループの代表を務めた。その後、日本で Society Superior に選ばれた。Cf. Father William V. Whitlow, MM in: Biographies in: Maryknoll Mission Archive (<http://maryknollmissionarchives.org/?deceased-fathers-bro=father-william-v-whitlow-mm>), 2017年12月8日閲覧。

² Clarence J. Witte(1910-2001)。メリノール会の Web アーカイヴによれば、1935年に大津で宣教を開始し、2年後彦根の牧者に任命される。ウィッテ神父の彦根到着は、上御旗町の聖堂が焼失した翌日だった。彦根で最初にカトリックの婚姻の秘蹟を行った司祭である。‘Q.E.D. What It’s All About’ という自伝を執筆している。

³ この国外退去で、メリノール宣教会の宣教師は Patrick J. Byrne を除き、全員日本を離れた。

⁴ おそらく誤字。正しくは「特高の訪問」であろう。

⁵ 『キリストの道 五十年』 p.8。

⁶ 『キリストの道 五十年』 p.8。

⁷ Alfred E. Smith(1919-1996)。メリノール宣教会 Web ページによれば彦根におけるメリノール会士不足のため、1951年5月に彦根小教区に割り当てられた(assigned)とあり、『キリストの道 五十年』にある1951年8月の着任とタイムラグがある。おそらく会の中で割り当てが決まったのが5月であり、主任司祭として着任したのが8月だったのであろう。

⁸ 『キリストの道 五十年』 p.8。

⁹ 『キリストの道 五十年』 p.15。

¹⁰ 『キリストの道 五十年』 p.15。

¹¹ ララ(LARA)とは Licensed Agency for Relief in Asia の略称であり、1946年米国の宗教・労働関係13団体が組織した。第2次世界大戦で困窮に陥ったアジア(特に日本、朝鮮)の民衆に対し、食料・衣料・薬品など生活必需物資を供与することを目的とした。その物資がララ物資と呼ばれた。昭和22年7月31日に衆議院で、感謝決議の対象となっている。